

漁況情報 No.19 平成 18 年 11 月 14 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

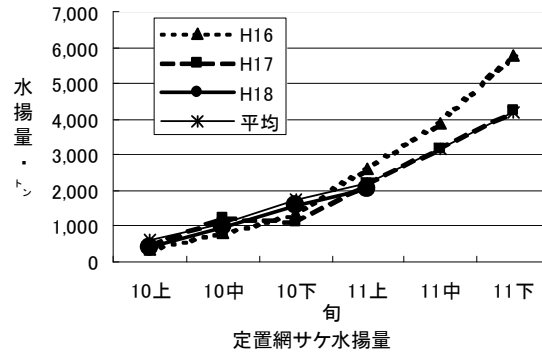
* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

<< トピックス >>

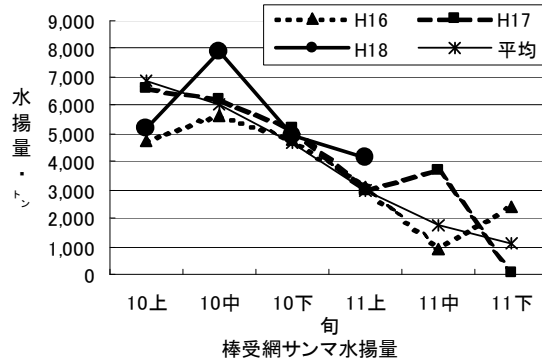
アキサケ(定置網)の水揚げはほぼ前年並に推移しています。
サンマ(棒受網)は好調を維持しています。
スルメイカ(いか釣り)は低調に推移しています。

1. 水揚げ状況

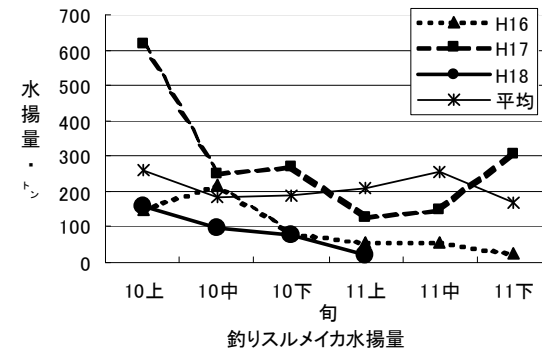
(1) アキサケ(定置網)は久慈、釜石、大船渡を中心に水揚げがあり、11月上旬の水揚げ量は2,021トン(前年の92%)でした。また、11月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は2,181トンで、旬水揚げはその93%でした。年累計は5,482トン(前年の96%)です。



(2) サンマ(棒受網)は宮古、大船渡を中心に水揚げがあり、11月上旬の水揚げ量は4,119トン(前年の1.4倍)でした。また、11月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は2,996トンで、旬水揚げはその1.4倍でした。年累計は39,481トン(前年とほぼ同様)です。



(3) スルメイカ(いか釣り)は水揚げがまともならず、11月上旬の水揚げ量は20トン(前年の16%)でした。また、11月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は210トンで、旬水揚げはその10%でした。年累計は1,056トン(前年の30%)です。



* 水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

2. 調査結果、その他の情報

(1) サバ精密測定結果

11月上旬に水揚げされたサバ類(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。

体長は30~34cmが主体であり、10月上旬、9月下旬より2~3cm程度小さくなっていました(図1)。本県で水揚げされるサバ類には、マサバとゴマサバがあり、両種は体長(尾叉長、図2、A)と背びれの長さ(第1背びれ第1~第9棘基底長、図2、B)の比で判別できます(詳細は漁況情報No.7参照)。この判別方法によると、今回測定したサバのほとんどがゴマサバでした(図2)。また、マサバとゴマサバの割合は1~2ヵ月毎に増減を繰り返していました(図2)。

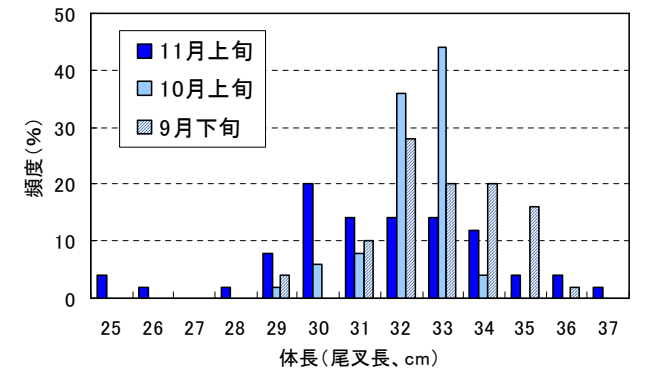


図1 サバ類体長組成

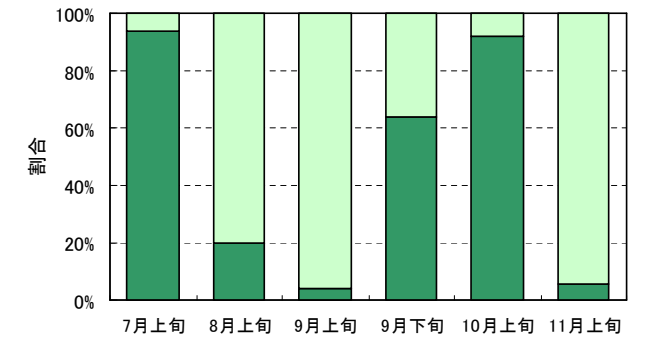
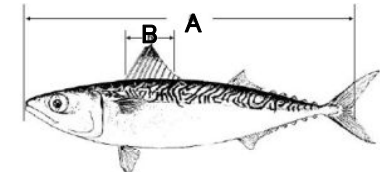


図2 マサバ、ゴマサバ割合の推移

(2) ショッコ(ブリ幼魚)精密測定結果

11月上旬に水揚げされたショッコ(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。体長は36~39cmが主体であり、9月下旬より10cmほど大きく、10月中旬とほぼ同様の組成でした(図3)。

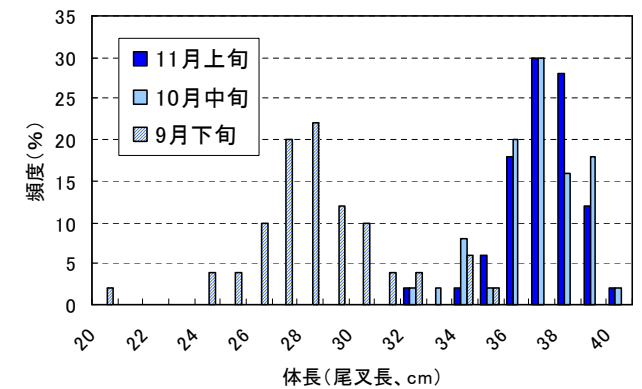


図3 ショッコ体長組成

「フィッシャリィ・ネットいわて」(<http://www2.suigi.pref.iwate.jp/>)で、日別・市場別・魚種別の水揚げ状況、定地水温などを検索できますので、こちらもご活用下さい。